

■研究ノート

岩手県博の所蔵さく葉標本の利用について

鈴木まほろ（学芸調査員）

1 影の存在

岩手県立博物館には、県内の植物研究家の方々から寄贈された維管束植物のさく葉標本が約2万点登録されています。めったに展示室に出されることがないため、一般のお客様にはほとんど気づかれることがない影の存在たちです。これらの標本は、種名・採集年月日・採集地・採集者名が書かれたラベルをつけられ、展示室の裏側にある収蔵庫に保管されています。同時にラベルの情報はパソコン上のデータベースにも記録されており、種の検索をしたり、産地別に植物のリストを取り出したりすることができます。収蔵庫には、このほかに1万点を超えると思われる未登録標本があり、現在も整理・登録作業が進められています。

2 標本の価値

ところで生物標本の価値は、大まかに言っておいて、学術的な価値と教育的な価値に分けることができます。学術的利用、特に分類学・生態学的研究にとっては、標本から得られる形態変異のデータや詳細な分布情報がきわめて重要であることは、よく言われているとおりです（千葉1999、博物館だよりNo.91を参照）。一方、標本のもつ教育的な価値については、基礎的で地味な側面であるためか、改めて指摘されることも少ないようです。

近年、自然環境に対する関心や登山ブームと相まって、山野の植物に興味をもつ人が増えています。植物区鑑は、野外で出会った植物の名前を調べるのに大変役立ちますが、写真や絵だけではそれぞれの種の特徴を捉えきれません。難解な専門用語を駆使した詳細な記述も、実物を手にとることで得られる情報には質・量ともに追いつきません。誰でも、外で見かけた植物を区鑑で調べようとページをあこれめくり、それらしいものを見つけたけれども今ひとつ

確信がもてない、という経験があるのではないのでしょうか。最大の違いは、区鑑では代表的な特徴をもつ個体だけを描いているのに対し、標本では、さまざまな産地や個体から取られたサンプルを比較することで、典型的な特徴と変異の幅の両方を直感的に理解することができるという点にあります。

つまり、さく葉標本は、専門家の研究だけでなく、専門家を志す学生や植物を愛する一般の人々が植物に対する理解を深めるためにも、大変価値のあるものです。もちろん、さく葉標本にも褪色・変質などの弱点があるので、区鑑などの文献情報の併用が不可欠であることは言うまでもありません。

3 県博のコレクションの特徴

当館のさく葉標本の2~3万点という所蔵点数は、自然史系の博物館や大きな大学の標本庫の所蔵点数と比べると一桁少なく、まだまだ小さなコレクションに過ぎません。しかし登録種数に関しては、県内で採集された標本だけで約2500種にのぼっており、県内に生育する維管束植物の80%ほどをカバーしていると考えられます。また、県内の絶滅危惧種のリストである「いわてレッドデータブック」（2001）に掲載された514種についても、その85%以上が登録されていると見られます。つまり当館の植物標本コレクションの特徴は、現在のところ、県内に分布する植物のほとんどがコンパクトに集められていることだと言えるでしょう。また、情報がデジタルデータ化されていることも大きな利点です。調べたい種の標本が何点あるのか、いつどこで採集されたのかといった情報を数秒以内に知ることができるほか、先にあげたような登録種数やレッドデータブック掲載種の所蔵割合などを簡単に計算できるのも、コンピュータの検索機能が使えのおかげです。こ

のような特徴を考えあわせると、当館に保管されているコレクションのもつ教育的価値の大きさがあらためて見えてきます。

4 これからの課題

当館では現在のところ、登録済みのさく葉標本に関しては、お申し込みがあれば収蔵庫で自由に閲覧していただいています（今年の4月からの3ヶ月間に、専門家・一般の方をあわせて4件のお申し込みがありました）。が、これらの所蔵標本をより多くの方に活用していただくためには、解決すべきいくつかの課題があります。まずは、同定が困難な分類群について正確を期するため、専門家の方々の御協力をいただきながら種名を確認すること。次に、どんな標本が何点あるかを来館前に調べることができるようなデータベースの公開です。また、閲覧を前提とした保管システムの確立や、閲覧用スペースの確保が必要です。残念ながら、現在の保管方法では、標本を収蔵棚から出し入れしにくいいため、閲覧の回数が増えると標本がいたむことも心配されます。

標本庫は、利用しなければ死骸置場にすぎませんが、活用次第で様々な価値が生まれるところなのです。貴重な共有財産である植物標本の価値を活かしたものにするために、多くの御意見をいただきながら、さまざまな課題を検討していきたいと思っております。



所蔵標本：キキョウ